

<https://blog.goo.ne.jp/ivelove/e/0750ef7c052582e551fc0cec15b0e324>

細川真理子さん死去 元札幌こどもミュージカル育成会会長

2020-07-15 | アイヌ民族関連

北海道新聞 07/14 20:56 更新

細川 真理子さん(ほそかわ・まりこ＝元札幌こどもミュージカル育成会会長)8日午前11時53分、誤えん性肺炎のため死去、88歳。長崎市出身。葬儀は近親者のみで行った。喪主は夫忍(しのぶ)さん。後日、記念会を開く予定。

81年に札幌こどもミュージカル育成会を設立し、会長に就任。アイヌ民族や平和を題材にした創作ミュージカルを作り、小中学生に踊りや歌を指導。東京やポーランドなど国内外で上演した。同会は11年に道功労賞を受賞、15年に解散した。

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/440511>

<https://blog.goo.ne.jp/ivelove/e/6fd7c30dfd2e596084f1cc6542d73a53>

こどもミュージカル30年 細川真理子さん

2011-10-28 | アイヌ民族関連

朝日新聞 2011年10月26日

●札幌で創作「こどもミュージカル」活動30年 細川 真理子さん(80)

「心と体を育てる教育の場です」。自らが会長を務める「札幌こどもミュージカル育成会」をこう言い表す。1981年の活動開始以来、人間と自然の共生やアイヌ民族の文化をテーマにした創作ミュージカルを国内外で上演してきた。現在、小学生を中心に約50人を率いる。会は25日、道功労賞を贈られた。

長崎県出身。父が牧師だったこともあり、幼い頃は「オルガンを無理やり習わされた」。だが戦時中、ひもじく、敵の攻撃におびえていた時、「自分を慰めてくれたのは音楽だった」。

結婚して北海道に移住。アイヌ民族の萱野茂さんに出会い、アイヌ語に触れた。「リズム感があり、音楽そのもの」。近所の子どもを集め、アイヌ文化を織り込んだミュージカルを上演したのが、会の始まりだ。

活動を続けて30年。手応えを改めて感じる出来事があった。東日本大震災後、メンバーの一人が「(被災者のために)何かをしたい」と言ってきた。「あなたに何ができるの?」と尋ねると、「一生の友達になってあげられる」。

その言葉に感激し、被災地へのメッセージを音楽に込めた演舞を、6月のYOSAKOIソーラン祭りで披露した。「人のために何かをしたいという心。『友達になる』というのは、お金には換えられない慰め。会をやってきて良かった」と優しく笑った。(浦島千佳)

[http://mytown.asahi.com/hokkaido/news.php?k\\_id=01000951110260001](http://mytown.asahi.com/hokkaido/news.php?k_id=01000951110260001)

アイヌ民族関連報道クリップ

<https://blog.goo.ne.jp/ainunews/e/e1e35b9e2c1d98700248a10c19893678>

アイヌ文化を新国立劇場で上演する細川さん(読売新聞)

2009-09-22 00:00:00 | アイヌ民族関連

アイヌ文化を新国立劇場で上演する細川さん 撮影・山本高裕

アイヌ文化をテーマにしたミュージカルを新国立劇場で催す細川真理子(ほそかわまりこ)さん(78)

札幌で「こどもミュージカル育成会」を主宰し、10月6、7日に子供たち約40人とともに、東京・新国立劇場の舞台に立つ。

上演する「ひとつのおわんでトウミクミク」は、アイヌ民族と神とのふれあいを描いた創作劇。2006年春にローマ法王・ベネディクト16世に賛美歌を披露したのに次ぐ大舞台で、「自然との共生など、アイヌ民族の精神を伝えたい」と意欲をみせる。

長崎の牧師の娘に生まれ、薬剤師として上京。42年前に夫の故郷・札幌市に移り、友人と訪れたアイヌの里、北海道平取町の二風谷で、アイヌの世界に初めて接した。その後、民族の虐げられた歴史を学んでいくうちに、「差別解消のため、少しでも力になりたい」と思うようになった。

ミュージカル主宰者に転じたのは、「アイヌ民族に息づく世界を、体全体を使って子供たちに学んでほしい」との思いからだ。以来約30年間、支援者からの寄付などを頼りに活動を続けてきた。10月の公演はその集大成。「下手でもいいから一生懸命演じてほしい」と教え子たちにエールを送る。(北海道支社 伊佐治真樹史)

